

東京都立鹿本学園 知的障害部門 中学部2年生 実施要領

1. 実施日時 : 2025年3月3日(月曜)、13時25分～15時15分
2025年3月6日(木曜)、13時25分～15時15分
2. 受講生徒 : 3月3日 / 中学部2年自閉学級
3月6日 / 中学部2年知的学級・重度重複学級
3. 交流のテーマ : “はくぶつかん”の宝もの ―ハニワとまが玉― を たのしもう

4. ねらいと展開(美術の教科授業に位置づけて)

(1) ねらい

- a, 生徒が美術で作った埴輪をもとに、人物埴輪の観察から、昔の人が玉の首飾りをしていることに気付くことができる。博物館に展示されている宝物(まが玉)を触察し、記憶に残すことができる。
- b, 博物館にある宝物のまが玉をさわって観察を楽しみ、大昔の人の気持ちになって、玉の首飾りペンダントを作ることができる。
- c, 博物館という存在を記憶に残し、利用する意欲をもつことができる。

(2) 展開 / 100分(休憩含む)

配時	児童の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	生徒への期待
導入 10分	授業の準備と始まりの挨拶 ・ 講座スタッフと挨拶する。 ・ 学習内容を確認する。 ＝博物館の宝ものを楽しむ	・ スタッフの自己紹介の後、全員で挨拶して始まりを意識させる。 * 担任が授業の開始を伝え、全員で「こんにちは」と言葉をかけあう。 ・ 学習の期待感がもてるようにする。	・ 特別授業を受ける気持ちに切り替え、それぞれが取り組む内容について見通しをもつことができる。
展開① 10分	埴輪(人物埴輪)を思い出す ・ 生徒が授業で作った埴輪を観察する。 ・ 実物の埴輪をパワーポイントの写真で観察する。	・ 美術の授業で作った埴輪の時代性や用途を再認識できるようにする。 ・ 人物埴輪から当時の人が身につけていたものに注意が向くように導く。 * 説明の間にスタッフは古代服を身につける(時代性を感じさせる)。	・ 埴輪について思い出すことができる。 ・ 人物埴輪が身につけた玉の首飾りに気づくことができる。
展開② 10分	まが玉などの玉類を触察する ・ 実物のまが玉などの玉類を	・ 触察は丁寧に扱うようにアドバイス	・ 玉類を丁寧に扱い、触

	さわって観察する。 ・感想を述べ合い、身に付けた時の気持ちを想像する。	し、落としたり投げたりしないようにスタッフがサポートする。 ・どんな人たちが身に付けていたのかなどを楽しく想像できるように導く。	察を楽しむことができる。 ・玉類のもつ意味に気づくことができる。
展開③ 20 分	パズルを組み立てる ・まが玉と埴輪のパズルの組み立てに挑戦する。	・パズルは A4 サイズ 6 ピースのもので、組み立ては 3～4 人 1 組でおこなう。	・協力してパズルの組み立てができる。
休憩 10 分			
展開④ 30 分	首飾りを作る ・まが玉の首飾りを参考にして、木玉やガラス玉、ビーズを使って首飾りを作る。 ・可能であれば、作った首飾りを付けて写真を撮る。	・制作用の玉を誤飲しないように、スタッフは玉の数を確認しながら進める。 * 玉の紐通しが困難な生徒には半完成品を渡し、紐を縛ることで出来上がりとなるようにする。 ・写真撮影では、希望する生徒は古代服も身につける。	・玉の首飾りを、楽しく作ることができる。 ・写真撮影で記憶に残すことができる。
展開⑤ 10 分	博物館を認識する ・博物館の展示室の様子を、パワーポイントの画像で観察する。 ・博物館という言葉のを憶え、関心を高める。	・博物館には、埴輪やまが玉などの宝物が展示されていることがわかるようにする。 ・博物館の単語を発声して、意識できるようにする。	・博物館の展示資料の多様さに気づくことができる。 ・博物館と声に出して言うことができる。
まとめ 10 分	感想を伝える ・感想を言葉や態度で表すとともに、埴輪やまが玉等の宝物が博物館でみられることを記憶に残す。 ・終わりの挨拶をする。	・生徒が博物館の名称を記憶に残し、行ってみたいと思えるようにする。 * 生徒が作った首飾りをプレゼントし、学習を記憶に残す。 ・プログラムの終了を意識させる。	・自分の気持ちを言葉や態度で伝えることができる。

(3) 使用教具・機器

- 教 材 : 実物のまが玉・管玉・丸玉 (古墳時代)、まが玉と埴輪の 2 次元パズル
- 道 具 : 首飾り制作用材料 / トンボ玉・ガラス玉・木製管玉等・細紐
生徒が準備するもの / エプロン・スモッグ
教員に準備してもらいたいもの / ハサミ (首飾り用の細紐を切るため)
- 機器・教具 : パワーポイント用 PC、ネクストラップ (博物館ネームプレート用)